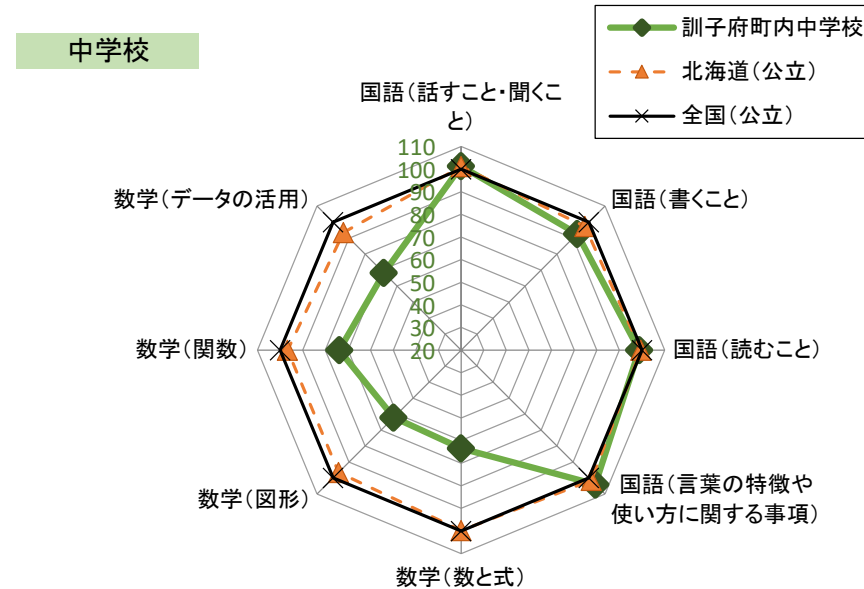
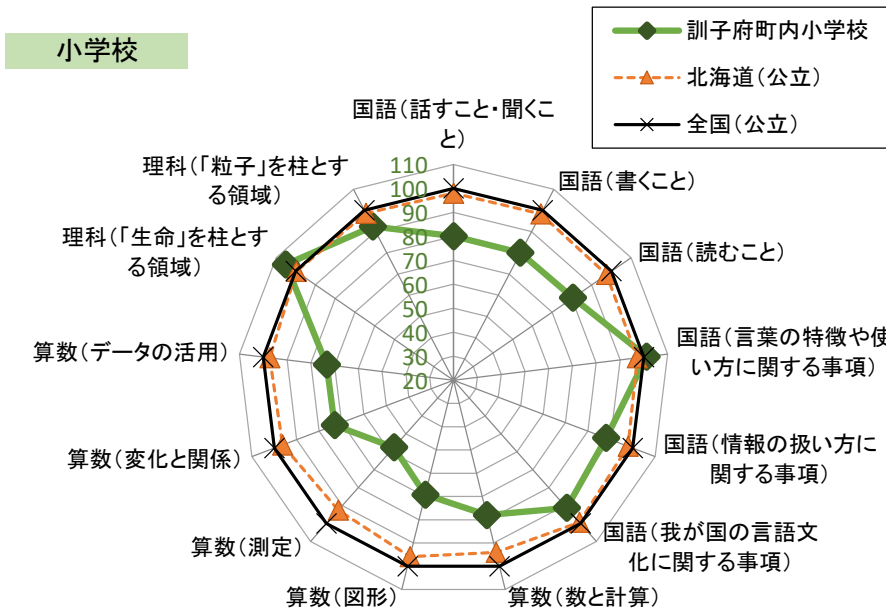


○ 教科に関する調査の状況

【レーダーチャート】

・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものと
 (市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

・中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません



- ・言語活動を重視することにより、国語の勉強がよく分かったと肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、「言葉の特徴や使い方に関する事項」では平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。
- ・算数の平均正答率が全国及び全道を下回っている状況は、算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えると回答した児童の割合が全国及び全道を下回っていることが、要因の一つとして考えられることから、「わかる・できる・楽しい」と児童が感じる授業改善を進めていく必要がある。
- ・実験や観察を重視したことにより、理科の勉強は得意であると肯定的に回答した児童の割合が全国を上回ったとともに、「生命」を柱とする領域では平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

- ・国語の授業において生徒一人一人の取組を価値付けることにより、「話すこと・聞くこと」で平均正答率が全国及び全道を上回ったとともに、昨年度よりも、全体の平均正答率において、全国及び全道との差を縮めることができたと考えられる。
- ・数学の平均正答率が全国及び全道を下回っている状況は、学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと回答した生徒の割合が全国及び全道を下回っていることが、要因の一つとして考えられることから、日常生活との関連を図った授業改善を進める必要がある。
- ・理科の授業において実験や観察を重視したことにより、理科の勉強が好きと肯定的に回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、全体のIRTスコアで全国及び全道を上回ったと考えられる。